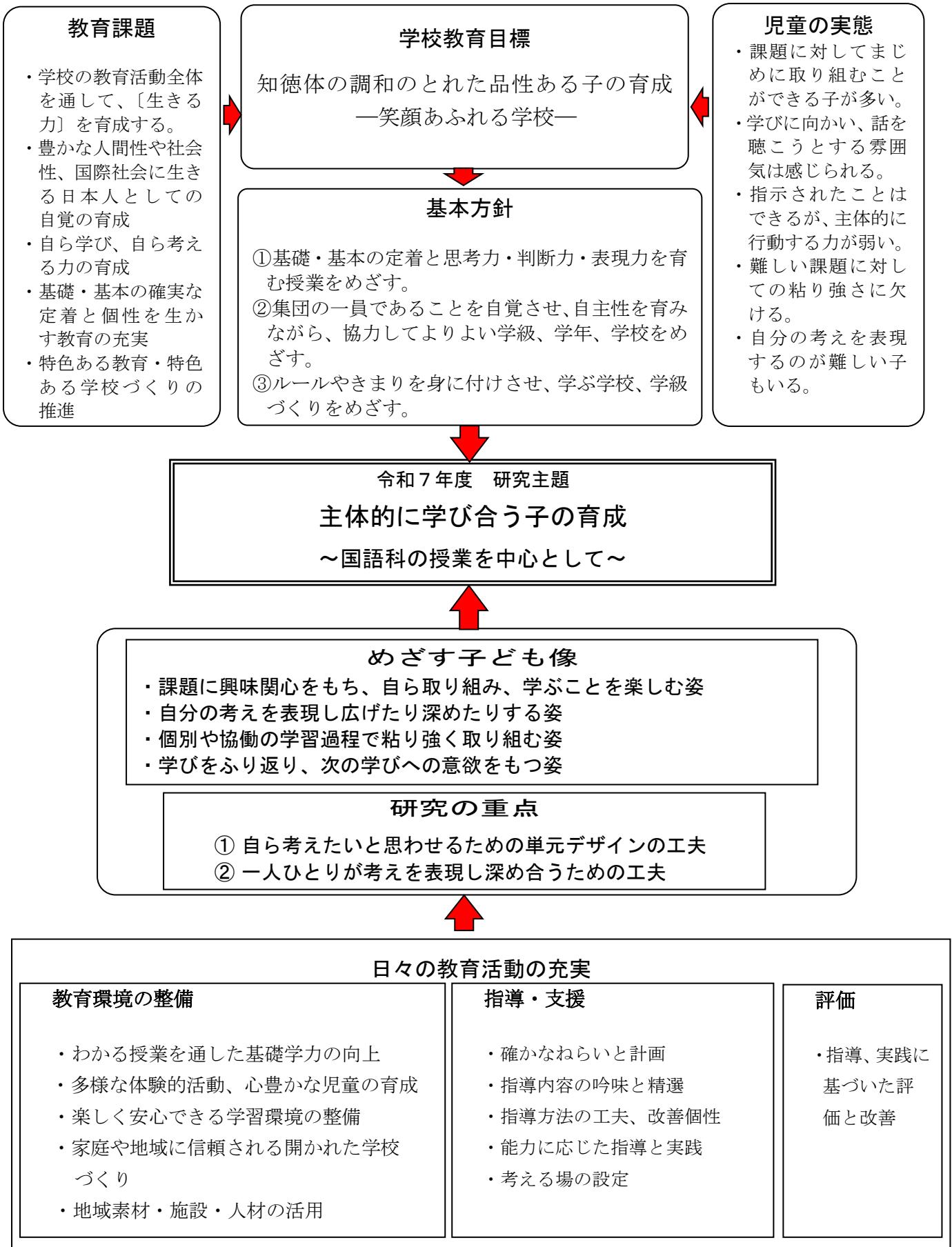


V 校内研究計画

1 研究の全体構造図



2 研究の概要

(1) 研究主題と副題

主体的に学び合う子の育成 —国語科の授業を中心として—

(2) 研究主題設定の理由

本校では昨年に引き続き研究主題を「主体的に学び合う子の育成」とし,研究を進めてきた。この研究主題のもと「一人ひとりが考えをもつための手立て」「一人ひとりが考えを表現するための手立て」の2つを重点として,国語科に実践を絞って研究を積み重ねてきた。

成果として,教科を国語科に絞ったことで,職員全員が同じ視点で授業検討を重ね,目指す子どもの姿を系統的な視点からも学ぶことができたことが挙げられる。学年での協力体制のもと,単元計画の工夫や効果的なGIGA活用,時には子どもに委ねる学習場面を設定し,自己決定の場面を設けることで児童の考えたい,やってみたいという意欲を引き出す授業のイメージをつかむことができた。また,交流の場面ではICT活用をして考えの見える化を図ったり目的をはっきりさせたりすることで,必要感のある交流を行う姿も見られるようになってきた

しかし,課題として,授業者が考えをもたせようとし授業を主導する形になってしまい,児童が課題に対して受け身で,課題を自分事として捉え粘り強く自分から学びに向かい解決しようとする力が不十分なことが挙げられる。

このような実態から,やってみたい,学びたいという意欲を引き出し,自分の考えをもち,児童主体で伝え合うことが必要であると考える。そこで,今年度も国語科の授業を中心に研究することで,言語を通して自分の考えを伝え合う力を子どもたちにつけ,さらには他教科や学校生活の他の場面にも波及することを目指していきたい。

今年度の重点①は「自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫」とし,児童主体で個別や協働の学習過程で粘り強く学習に取り組んでいく姿につなげるにはどのように単元をデザインしていくとよいのかを研究していく。単元デザインの工夫をすることで,児童のやってみたい,考えてみたいという興味関心を高め,課題を自分事として捉え意欲的に学びに向かう姿を目指していく。重点②は「一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫」とする。自分の考えを一方的に話すだけではなく,話し手は,根拠や理由を明確にして伝え合ったり,聴き手は自分と友達の考えを比べながら聴き合ったりする中で,自分の考えを深め「わかった,できた」という姿につなげていく。そのためには教師のどのような工夫が効果的なのか研究を進めていく。

この二つを重点として,児童主体で試行錯誤しながら最後まで粘り強くやり切ろうとする姿を目指していく。児童が自分事として課題にあきらめずに取り組み,最後までやり遂げたことへの満足感や充実感を味わうことで,次の学びへの意欲をもつことにもつながると考える。全教職員で国語科を中心として「主体的に学び合う子」の育成を目指し,学校研究を進めていく。

3 研究構想図

①学校教育目標

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成

～笑顔あふれる学校～

②研究主題

主体的に学び合う子の育成
—国語科の授業を中心として—

研究仮説

国語科の授業を中心として「どうしてだろう?」「考えてみよう」など児童が課題に対して興味関心をもち、個別や協働の学習過程において、試行錯誤しながら学びを進め、友だちと考えを伝え合わせ、自分の考えを深め合うことができれば、「わかった」「できた」という満足感や充実感を味わうことができ、主体的に学び合う子が育成できるだろう。

<研究の重点>

重点1 自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫

重点2 一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫

基礎基本の定着

学習規律

生徒指導の4つの視点を生かした
学びの集団づくり

学びの土台

4 めざす子ども像

課題に興味関心をもち、自ら取り組み、学ぶことを楽しむ姿

個別や協働の学習過程で粘り強く取り組む姿

自分の考えを表現し広げたり深めたりする姿

学びを振り返り、次の学びへの意欲をもつ姿

5 研究の重点

重点1 自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫

<具体的な手立て>

☆必要感のある導入

- 考えたくなる言語活動の工夫
- 教科の内容と日常生活を関係付ける
- モデルの提示
- 単元終末ではどんな姿になっていたいかを児童と共有する

☆課題解決の見通しをもたせる

- 授業の流れ、ゴールを示す
- 「こうしてみよう」という解決に向けた自己決定
- 既習掲示（学習計画・既習内容・学習用語）の活用
- 実物・具体物・ＩＣＴの活用

☆個に委ねる場面の設定

- 一人ひとりが試行錯誤をする場を設定
- 個別に学びを進めるための学習環境の整備
- ワークシートや全文シート、付箋紙の活用
- 語彙表・国語辞典・類義語辞典の活用
- 根拠に線、理由を書き込む
- 効果的で柔軟な時間配分

☆きめ細かな個別支援

- 個に応じた机間指導
- ヒントの提示
- 考える視点を与える

☆学びの振り返り

- 毎時間の学びをつなげるための振り返りの充実

重点2 一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫

<具体的な手立て>

☆聴き方・話し方の工夫

- 根拠と理由を明確にした話し方
- キャッチボール言葉の活用
- 具体的な質問（児童・教師）
- 児童の発言の価値づけ

☆交流の場面の工夫

- 必要感を引き出す働きかけ
- 目的を明確にした交流（考えをもつ・増やす・くわしくするなど）をもたせる
→交流後、めあてが達成できたか振り返る
- 目的に応じた意図的グループ編成（同じ考え方・違う考え方、同じ場面・違う場面同士など）
- G I G A端末やワークシートの活用

☆問い合わせの吟味

- 本時でつけたい力につなげるための問い合わせ
- 「…と…を比べてどう思った？」「つまり？」「本当にそうかな？」「…と何が違うかな？」
- 「…の場合はどう？」「いくつにまとめられる？」など問い合わせシートを活用して

☆構造的板書の工夫

- 対比・分類・関係・キーワードなどの可視化
- 視覚的にわかりやすい色の活用

6 学びの土台

(1) 学習規律（生徒指導部と連携）

- チャイムで授業をスタートし、チャイムで終わる。
- 身だしなみを整える。
- 授業の初めと終わりのあいさつは、授業者と目を合わせてはっきり声を出す。
- 視線を合わせて話し合う。
- 持ち物のきまり（持ち物スタンダード表）や、ノートの使い方を守って学習する。
- 次の学習の準備をしてから休憩する。

(2) 基礎基本

- さわやかタイム（基礎基本問題・活用問題・補充プリントなど）の活用
- 学年×10分の家庭学習時間の定着
- 直しの徹底
- 毎学期の基礎基本テスト（算数）の実施

(3) 学びの集団づくり

- 聴き方・話し方の指導



- 安心して言える学級づくり

- 生徒指導の三機能+1を生かす

- 発話をふやそう！「ワクワクお話タイム」

月1回さわやかタイムを使って、会話のキャッチボールを楽しむ時間をとり、楽しみながら話したり聞いたりできるようにする。

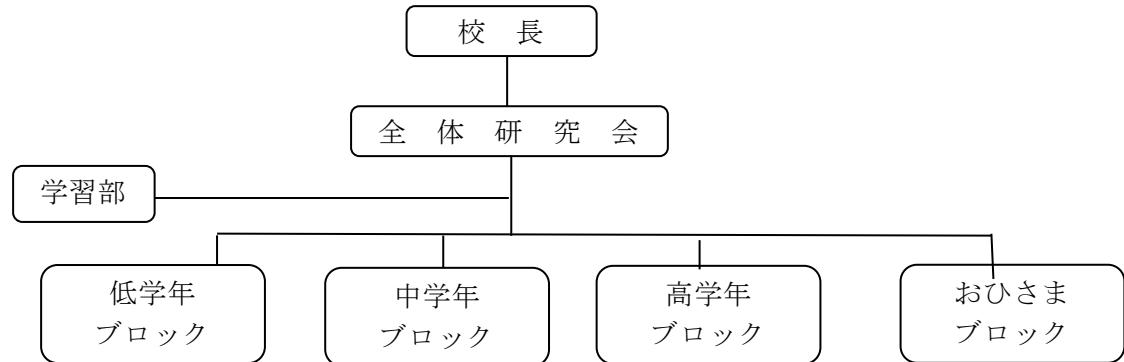
7 広陽授業モデル（主体的に学び合う子をめざして）

	区切り	単線型	複線型
準備	チャイムまでに	○前の時間の終わりの挨拶の後、次の授業の準備、確認	・前の時間のものは片付け、次の時間で使うものを机上に準備する
構え	チャイムスタート	○はじめの挨拶	・大きな声で「始めます」教師は見届ける。
導入 5分	既習の確認	○既習について確認する ・学習問題の工夫【全員挙手】	●前時間はどんな勉強をしましたか? ・～について勉強しました。・～がわかりました。
	問い合わせ課題をつくる	○ 考えたくなる課題づくり (子どももとつくる・必要感をもたせる) ・どんな、どうなって(観点) ・どうして(理由) ・どのように(様子) ・どうしたら(方法)	●今日考えていきたいのはどんな問い合わせですか。 ・今まででは・・・だったのに、どうして? ・～するにはどうすればいいのかな? ・～はどうなっているのかな? ・～ってどんなことかな?
	見通しをもつ	○ゴールへの見通しを持たせる	●今日のゴールは…ができたらしいんだね。 ●○○を解決していこう。
展開 25分	自力解決	○一人ひとりが自己決定をしながら考え方を表現し深め合う <u>(考え方・根拠・理由)</u>	○一人ひとりが学び方を自己決定し、自分のペースで学びを進めていく <u>(考え方・根拠・理由)</u>
	交流	個別 ●根拠(叙述・図など)に線を引きましょう。 ●根拠をもとに、理由と考え方書きましょう。 ・文章や資料、式などから○○だとわかるな。 ・考え方を言葉だけでなく、図や式を入れて書いてみよう	【効果的で柔軟な時間配分をする】 ○学び方の選択 何を 誰と どこで 順序 方法 時間配分など
	深める	ペア、グループ、全体交流 ・キャッチボール言葉を使って ○構造的板書 ○思考を深め、自分の考え方を再構築させるために問い合わせ ・考え方の分類・対比・関係 ・考え方の共通点や違い ・…の場合はどうかな? 	○協働的な学び 友達と考えを交流し深め合う 教師によるコーディネート
終末 15分	課題のまとめ	○課題に正対したまとめ 自分の言葉で 条件をつけて	○見方・考え方を促す ○学びを深めるための環境整備 ・既習掲示 ・関連資料 ・ICT活用 ・ヒントカード
	ふり返り	○適用問題 学びの定着【全員挙手】 ○振り返り ①自分の変容 ②友達の良さ ③思ったことや考えたこと ○見取り(評価)	○個の見取りと支援 ○思考を深め、自分の考え方を再構築させるために個に問い合わせ
締め	チャイムで終わる	○終わりの挨拶	●今日の課題は〈 〉でしたね。 ●課題についてどんな言葉でまとめられそうですか? ●今日のキーワードは何ですか? ●今日の勉強で考え方が変わったところ、わかるようになったところはどこですか?
			・大きな声で「終わります」教師は見届ける

8 研究方法

(1) 研究組織

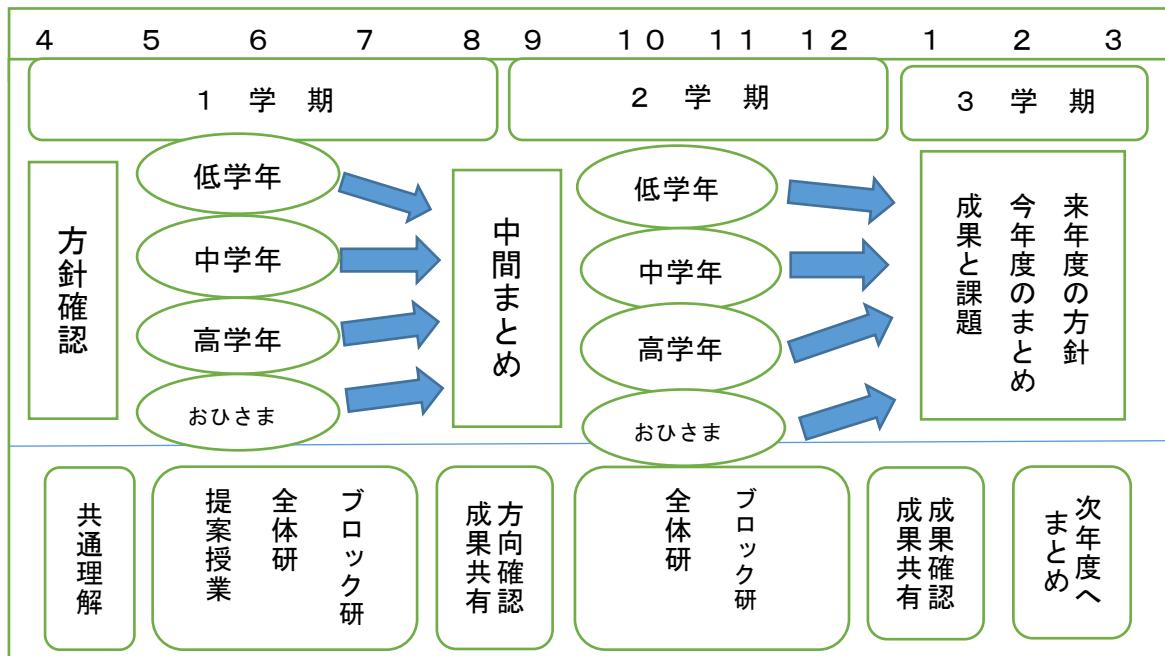
- ・研究単位は低中高の3低・中・高学年・おひさまの4ブロックで行う。
- ・学習部から校内研究の基本線や推進案を提案し、全体研究会で共通理解を図る。
- ・研究の重点をもとに、各学年・ブロックで授業研究を進め、全員が年1回公開授業をする。



(2) 研究授業等の基本方針

- ・研究授業は目指す児童の姿、ねらいを明確にして実施する。
- ・級外も含めて、全員が研究授業を行う。全体研究授業3本（低中高各1本）を行い、その他 の学年とおひさまは、ブロック研究授業とする。
- ・全体研・ブロック研代表者以外は、学年で事前研・事後研を行う。
- ・助言者の要請は、各学年1本ずつの研究授業の事後整理会で行う。研究内容の共通理解を深め、研究の充実を図る。
- ・全体研究授業は全員で、ブロック研究授業は各ブロックで事前研究会・事後整理会を行う。
- ・研究授業の際には、定型の指導案を作成する。授業後には考察をまとめ、研究紀要に綴る。
- ・級外は、できるだけ所属する学年、もしくはブロックで研究授業を行う。

(3) 研究計画



9 研究年間計画

月	全体研	ブロック研	学習部	備考
4月	研究の方向性確認 校内研究計画 授業づくり	具体的な取組 研究授業計画	校内研究計画の提案 (組織・方向性・各ブロックの取り組み内容・指導案など)	
5月	提案授業	授業研究		外部講師
6月	全体研究授業	授業研究 ブロック研究授業 学年研究授業	全体研運営	外部講師
7月		中間まとめ準備 学年研究授業	中間まとめの確認	
8月	中間まとめ (成果・課題)	2学期の取組	全体研運営	
9月		授業研究 学年研究授業		
10月	全体研究授業	授業研究 ブロック研究授業 学年研究授業	全体研運営	外部講師
11月	全体研究授業	授業研究 ブロック研究授業 学年研究授業	全体研運営	外部講師
12月		まとめに向けて (考察・紀要執筆分担)		
1月		今年度のまとめ	各ブロックのまとめの確認・紀要原稿確認	
2月	今年度のまとめ 来年度の方向性の討議	次年度の方向性の討議	今年度の取組のまとめ 成果と課題の提案 次年度の方向性の提案	
3月	来年度に向けて		次年度への申し送り文書作成 研究紀要完成・配布	